

# CHOHO

広報誌 [長報:チョーホー]

Vol. 33

2010 October AUTUMN

Since 2002



特集

長崎と鯨類研究



## がんばれ、日本の若者たち!

今回のCHOHOには、中村法道長崎県知事が登場されています。実は、知事と私は同期(1969年)の長崎大学入学なのです。学部も異なり、それぞれ趣の異なる学生生活を送ったので、二人の学生時代が交叉することはありませんでした。それが、40年後にこうして知事と学長という立場で見えることができた、このご縁を大切にしたいと思います。

混迷の時代とよくいわれます。そして、さまざまな領域でイノベーション(変革、新しい価値の導入、変革をもたらす発明・発見)が待望されています。それを担うであろう若者たちへの熱い期待は、知事と私に共通したもののなのです。知事も、“いろいろな体験や回り道をすること”を勧められ、そして“やろうと思えば、必ずできる”と激励されています。これまでの常識を疑い、若い新しい眼で世の中を観察することがイノベーションの第一歩です。そして自ら考え、決断し、失敗を恐れず実行する。このチャレンジを楽天的に(できると信じて)やり続けることができれば、イノベーションを達成できること間違いなしです。

がんばれ、日本の若者たち。君たちのチャレンジを、40年前に若者であったわれわれ世代は全力で支えるつもりです。

平成二十二年 神無月

## | CONTENTS |

【特集】 長崎と鯨類研究	1
【現場に飛び出せ!躍動するフィールドワーカーたち】 第2回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	8
【人クローズアップ】 長崎大学病院 産婦人科医 山崎 健太郎	11
【いいたか放題】 長崎県知事 中村 法道さん	14
【グラバー函譜】 ブダイ	16
【温故知新】 第1回 「若人」の像	18
【長大ニュース】	19
【インフォメーション】・【編集後記】	20



特集

# 長崎と 鯨類研究

古くから、クジラとのゆかりが深い「長崎」。  
かつて、浦々に巨万の富をもたらした  
西海捕鯨の歴史から、  
近年の水産学部における鯨類研究まで、  
鯨類学がご専門の天野雅男先生に伺いました。



水産学部教授  
天野 雅男  
Amano Masao

〈プロフィール〉  
1962年大阪府豊中市生まれ。1987年京都大学理学部卒業、1993年京都大学大学院理学研究科動物学専攻博士課程修了。東京大学海洋研究所(国際沿岸海洋研究センター・岩手県)助手、帝京科学大学准教授を経て、2008年より現職。専門は鯨類学。博士(理学)。80~90年代、古式捕鯨の地で知られる和歌山県太地町でイルカの追い込み漁業を、その後、岩手県でイルカの突きん棒漁業を調査研究。2000年からマッコウクジラの生態調査のため、和歌山、小笠原、知床でフィールドワークを展開中。  
<http://web.mac.com/masaoamano/>

◎ 鯨類とは、哺乳類のクジラ目に属する水生動物の総称です。  
ヒゲクジラとハクジラのグループに大別され、イルカもハクジラのグループに含まれます。



## 西海捕鯨とクジラ文化

# 浦々を潤し、 繁栄を極めた 西海捕鯨。



〔得庵本〕全14葉 和綴本 文政13年(1830)  
松浦史料博物館蔵

山見(陸からクジラを探す場所)からクジラ発見の合図があると、勢子船は競うように沖へ漕ぎ出し、西海捕鯨の特徴である三重に張られた網にクジラを追い込んで、クジラの動きを封じてから、鉚を打ち込んだ。勢子船に揚げられた旗の「タテ牛角紋」から益富組の捕鯨の様子とわかる。

### 【日本人と捕鯨】

日本人の鯨類の利用はたいへん古く、各地の縄文時代の遺跡から鯨骨が出土しています。当時は、積極的に海に出て捕獲したのではなく、弱って漂着したり、死んで海を漂流していた、「寄せ鯨」や「流れ鯨」を利用したと考えられます。

そのような中、長崎県平戸市にある縄文時代(前期～中期)の「つぐめの鼻遺跡」からは、大型の石鉚やスクレーパー(掻き取る道具)など、捕鯨もしくはクジラの解体に使用したと考えられる石器が多数出土しています。

「つぐめの鼻遺跡」は、長崎県北部の平戸瀬戸に面した場所にあります。長崎県北部は、春には餌を求めて日本海を北上し、冬には南下して暖かい海で過ごすクジラたちの回遊ルートにあたる海域で、その一部には平戸瀬戸を通過するものもあったようです。しかも、平戸瀬戸は狭く、通過するクジラたちの行動に制限がありました。そのため、この地では当時から捕鯨が行われていたと考える研究者もいます。

### 【西海捕鯨のはじまり】

中世(鎌倉～室町時代)には、「寄せ鯨」や「流れ鯨」を利用して、鯨油を採り、鯨肉を食したという記録が残されています。

本格的に捕鯨業がはじまったのは戦国時代末期です。発祥地については諸説ありますが、三河(愛知県)の知多半島が有力のようです。当時は、突取捕鯨法(船でクジラに近付き、鉚や剣を手投げで突き刺して弱らせ捕獲する方法)が用いられ、まもなく紀州や土佐、そして西海地域(九州西北部～山口県)へ伝播しました。

九州でもっとも古いクジラの研究書といわれる享保5年(1720)の『西海鯨鯢記』には、寛永元年(1624)に紀州の人が西海地域に進出したことが記されています。これが、西海捕鯨の創始といわれ、突取捕鯨法は西海各地に急速に広がりました。なお、1680年頃には突取捕鯨法に、網掛けをす





る過程が加えられた網取捕鯨法がはじまり、より確実に捕獲できるようになっていました。この突取捕鯨法や網取捕鯨法を古式捕鯨といい、明治時代まで続きました。

### 【鯨組の組織】

鯨組と呼ばれた捕鯨組織の基地は、平戸島、生月島、度島、的山大島、壹岐、大島、崎戸島、松島、宇久島、小値賀島、五島(有川、魚之目)、唐津(小川島など)にありました。「西海鯨鯢記」には、万治年間(1655～1661)には、73もの鯨組があったと記されています。その組織は、沖に出てクジラを捕獲する「沖場」と、漁の準備や捕ったクジラを解体加工する「納屋場」に大きく分かります。それぞれ細かく役割分担がされ、何百もの人を雇う大規模な組織もありました。

「沖場」では、勢子船と呼ばれる和船で、「加子(漕ぎ手)」がクジラを網の中に追い込み、「羽指」と呼ばれる漁夫が、鉞を投げて仕留めました。当時、捕獲されたのは、セミクジラ、ザトウクジラ、コククジラなど。その油も肉も、くまなく利用され、俗に「鯨一頭で七浦潤う」といわれるほど、莫大な富をもたらしました。

### 【西海捕鯨の繁栄の理由】

江戸時代、西海地域は、安房、紀伊半島周辺、土佐などと並んで、日本の主要な沿岸の捕鯨地のひとつとして栄え、次第に日本最大の捕鯨漁場として発展しました。その要因は、漁場一帯(対馬海峡周辺)が、日本海から東シナ海を回遊するクジラのルートであったこと。島々や陸地の近くをクジラが行き来するため、沿岸捕鯨の好立地であったこと。そして、リアス式の複雑な海岸線は良好な港(捕鯨基地)をもたらしたことなど、地理的にも、自然条件にも恵まれていたことが大きいようです。





古くから捕鯨で栄えた五島・有川の海童神社。鯨骨の鳥居が奉納されている。



左下から時計回りに、クジラの皮、さえずり(舌)、赤身、ペーコン。

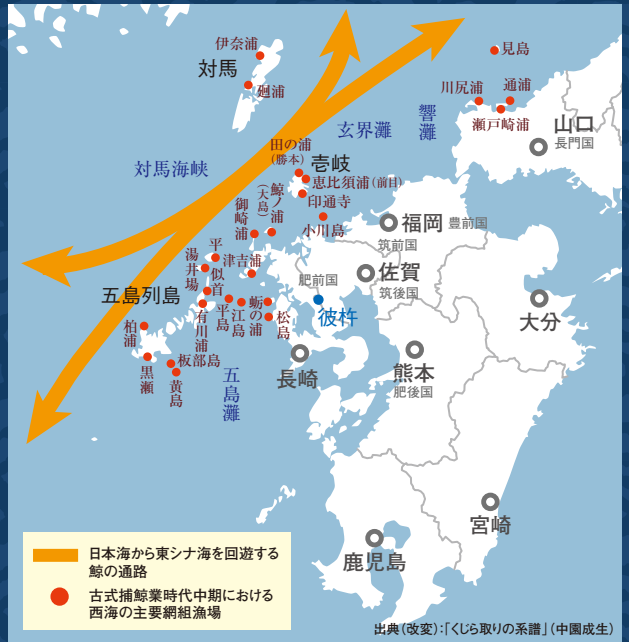


「長崎くんち」で万屋町から奉納される「鯨の潮吹き」。



司馬江漢『画図西遊譚』享和3年(1803)松浦史料博物館蔵

司馬江漢は、捕鯨見物のため益富組を訪れ、生月島の捕鯨を詳細な描写で残した。



### ■西海捕鯨で主に捕られたクジラ



### 【日本一の益富組(生月島)】

西海の鯨組には、有川組、小川組、益富組、中尾組などがありました(名称は、地名や組主の名前に由来)。その中でも、生月島の益富組はもっとも繁栄を極め、その規模は日本一を誇りました。

享保10年(1725)にはじまる益富組は、全盛期には、200隻を超える船を使用、3,000人余りの加子を擁したといわれます。益富組が操業した142年間に捕獲したクジラは21,700余頭、事業で得た収入は約3,320,000両にまで及び、平戸藩の財政に大きく貢献しました。

ところで、江戸時代には、捕鯨やクジラの解体などの様子を解説した絵巻物が数多く作られています。益富組も木版印刷による捕鯨図説『勇魚取絵詞』を刊行。この付録『鯨肉調味方』では、クジラの部位を88カ所あげ、その内、可食部分67カ所の調理法を記していて、当時の捕鯨とその利用を知るたいへん貴重な史料になっています。

### 【捕鯨の衰退】

幕末になると、アメリカやイギリスなど欧米の国々の捕鯨船が日本近海でも操業。日本沿岸の一部の鯨種の数が急速に減っていき、日本の古式捕鯨はどんどん衰退していきました。

明治後期に入ると、ノルウェー式砲殺捕鯨法が導入され近代捕鯨業時代がはじまります。捕鯨会社が次々に設立され、長崎も拠点のひとつとしてにぎわいました。しかし、日本沿岸のクジラは乱獲され、西海地域でも1970年代に捕鯨の終焉を迎えることになりました。近年、過去のクジラの乱獲を各国が反省

し、1987年以降「国際捕鯨委員会(IWC・1937年設立)」での決議によって商業捕鯨は一時停止されています。現在、日本では、イルカ類やツチクジラなどのIWC管轄外の鯨種の捕鯨と調査捕鯨(捕獲調査)のみが行われています。

### 【長崎のクジラ文化】

江戸時代、西海地域で捕れた鯨肉の流通の拠点は、大村湾の一角にある彼杵宿(長崎街道の要所のひとつ。現・東彼杵町)で、ここから九州各地へ運ばれました。出島貿易で潤っていた長崎方面は、特に尾の身、畝須などの高級な部位が好んで運ばれたといわれています。

鯨肉が親しい食べ物だったことを物語るように、長崎には、クジラの食文化がいまもすっかり根付いています。市場では鯨肉が売られ、長崎市内にはいくつかの鯨専門店もあります。祝いの膳には欠かせない食材で、折々に家庭の食卓にあがっています。

かつての鯨組の地元には、クジラの供養塔が必ずあり、また、神社の鳥居の寄進者として鯨組の名前が刻まれているなど、日本人らしい信心深さが伺えるものが残っています。

また、長崎市の「長崎くんち」では、江戸時代から「鯨の潮吹き」という演し物が万屋町から奉納されています。ちなみにこのクジラは、当時から好んで捕獲されたセミクジラです。

西海捕鯨の繁栄に由来する長崎独自のクジラ文化。時代の変化に翻弄されながらもいまも脈々と受け継がれています。

#### ◎主要参考文献

- くじら取りの系譜(中国成生著/長崎新聞社)
- 西海のくじら捕り(立平進著/長崎県労働金庫)
- ※本稿をまとめるにあたり、元水産学部教授の真野季弘氏にご協力をいただきました。
- 心より感謝申し上げます。



クジラのみならず「長崎」に受け継がれる

# 水産学部の鯨類研究

## 多様な視点で鯨類にアプローチ

捕鯨業で栄えた歴史を持つ長崎は、スナメリやミンナミハンドウイルカなどを身近に観察できる海にも恵まれています。そんな土地柄を背景とする長崎大学の鯨類研究は、戦後間もなく水江弘先生（1950-75、1983-87在職）によってはじまり、柴田恵司先生（1950-90在職）、竹村暘先生（1965-2008在職）、真野季弘先生（1975-96在職）らのグループも、クジラに関する研究を行い、それぞれ生態・行動・生活史・形態変異など幅広い調査を展開しました。

水江先生は、北洋へ出るサケ・マス漁の船に乗り込んで網にかかるクジラを調査。柴田先生は、古式捕鯨に使用された和船の構造の研究を行いました。竹村先生は、主にイルカの音声やスナメリなどの研究で知られる一方で、研究グループから優れた鯨類研究者を輩出しています。真野先生は、1980年代に捕鯨船に乗り込んでマッコウクジラの行動、捕鯨船における業務についての調査を行いました。

## キャンパスにも捕鯨業の名残

こうした先生方による研究成果をベースに、現在も水産学部における鯨類研究は続けられています。

長崎大学文教キャンパスの「中部講堂」は、捕鯨ゆかりの建物です。大洋漁業（現マルニ手口）の中部譲吉氏（当時の社長）の寄附で1962年（昭和37）に建設されました。大洋漁業は、当時、南水洋捕鯨で知られた会社です。

また、水産学部前の池に設置されている捕鯨砲は、1973年（昭和48）に大洋漁業の捕鯨部に入社した同学部の卒業生の縁で、不要となった捕鯨砲を教材として譲り受けたものです。長崎大学の歴史をひもとけば、捕鯨業と深い関わりが見えてきます。



捕鯨ゆかりの中部講堂。



水産学部に寄贈された捕鯨砲。



水産学部の鯨類研究を受け継ぐ天野研究室のメンバー。



# マッコウクジラの調査研究

## マッコウクジラのフィールドへ

私たちは、毎年8月・9月には、北海道羅臼町を基地に、知床羅臼沖の根室海峡に回遊するオスのマッコウクジラの生態調査を行っています。

マッコウクジラは、主に深海に棲むイカ類を捕食するため、水深のある外洋を中心に生息しています。しかし、根室海峡は海岸から急激に深くなり、マッコウクジラが好む深い海域が沿岸すぐに迫っています。そのため、羅臼は岸からマッコウクジラが観察できるという世界的にもまれなフィールドです。

## オスのグループの生態を調査研究

マッコウクジラのメスは、母系を基盤とした、長期間続く安定した社会で暮らします。一方オスは、ある程度大きくなると、母親のいるグループを離れ、血縁のないオス同士でグループをつくり、北の海に回遊するようになります。成長するにつれ、このグループのメンバーの数は減っていき、最終的には何年かオスだけの社会を経験した後、一頭(まれに二頭)で生きるようになります。

暖かい海域に棲むメスのグループの生態については、世界的に研究調査が進んでいます。が、オスについては、まだ未解明なことが多く、根室海峡に回遊する若いオスの個体識別に基づく社会構造の調査を進めています。

## 個体識別に基づく社会構造調査

マッコウクジラは深い潜水に入るとき、尾びれを高く空中に上げます(フルークアップ)。尾びれには、成長とともにさまざまな傷ができ、その傷跡は二頭、二頭異なるため、個体識別が可能になります。そこで、フルークアップのとき写真を撮り、どの個体がいつ、どの個体と一緒にいたかという情報から、群れの構造を明らかにしています。



尾びれの様子が鮮明に確認できるフルークアップ。

## セオドライトを使用した分布調査

セオドライトとは、土木調査などで使用されている測量機器です。クジラまでの水平方向、垂直方向の角度を計測することで、陸上から観察できるクジラの位置を求めることができます。この方法で、マッコウクジラをはじめ、その他の鯨類の分布や移動について調査を行っています。



羅臼灯台脇の「クジラの見える丘公園」から観測。

## 音響調査



水中マイク(システム)でマッコウクジラが発する音を調査中。

マッコウクジラは、潜水中にクリック音と呼ばれる「カチカチ」と聞こえる音を発し、エコーロケーション(自ら発した音波の反響を聞くことで、まわりの物体の様子を確認すること)により餌を探します。クリック音を調べることで、餌をいつ発見し、どのように餌に近付いているかが推測できます。

また、マッコウクジラはコーダと呼ばれる音を発して、群れの中でコミュニケーションをとっています。コーダのレパトリーはメスの群れごとに異なりますが、それぞれ違うメスの群れで生まれたオスの群れの個体が、どのようなコーダのレパトリーを持っているのかなども、水中マイクを用いて調査研究をしています。

## データロガーによる水中行動調査

マッコウクジラは、深海のイカ類を捕食するため、1000メートルを越える深さに40分以上も潜ります。真っ暗な深海での彼らの行動を知るため、データロガーという小型記録計をクジラに装着して調べています。



データロガーを装着するためクジラに近付いているところ。



データロガーを装着したマッコウクジラ。



ストランディングの調査

鯨類は、死体が海岸に打ち上げられたり、生きのまま群れで海岸に乗り上げたり、漁網に掛かって死んだりする場合があります。このようなことをまとめて「ストランディング」と呼びます。

「ストランディング」した死体を解剖し、形態、年齢、成熟状況、遺伝子、食物、病気、体内に蓄積している化学物質などを調べます。そうして集めたデータで鯨類の生態を明らかにしていくことができます。

長崎大学では大村湾のスナメリをはじめ九州北部一帯で「ストランディング」の情報を集め、調査を行っています。



漂着したニタリクジラの解剖。



天草のミナミハンドウイルカの群れ。

と、一時的に違うグループ同士が協力しあうなど、人間社会にも見られるような複雑な個体関係を示すことが別のフィールド調査で報告されています。天草の大きな群れは、どのような社会構造をしているのか、ただ今調査中です。



長崎では「なみのいお」と呼ばれ親しまれているスナメリ。

熊本県天草の通詞島周辺には、ミナミハンドウイルカが周年生息しています。多くの海域でミナミハンドウイルカの群れは、10〜20頭くらいであるのが普通ですが、天草の群れは、約100頭を越す大所帯です。ミナミハンドウイルカやハンドウイルカは、たいへん社会的な動物で、子供を持つ母親同士がグループをつくって子育てをします。一方オスは、得られる利益によってグループを変えたり、対立するグループがある

と、一時的に違うグループ同士が協力しあうなど、人間社会にも見られるような複雑な個体関係を示すことが別のフィールド調査で報告されています。天草の大きな群れは、どのような社会構造をしているのか、ただ今調査中です。

天草のミナミハンドウイルカ

大村湾のスナメリ

スナメリは、ベルシャ湾から日本までの沿岸に生息する小型のクジラです。長崎県周辺では、大村湾に約300頭、有明海に約3800頭ほど生息していると推測されています。スナメリは、沿岸環境の悪化とともにその数が減っている可能性もあると心配されています。水産学部では、主に大村湾に生息するスナメリの生態を研究しています。

鯨類研究を通して思うこと

「鯨類研究の魅力」

鯨類は、人類と古くから関わりがありながら、その生態や行動など解明されていないことが多い動物です。現在、約90種類ほど確認されていますが、大型哺乳類でありながら、いまだに新種が発見されている状況です。ですから、この分野の調査研究においては、まず、比較的容易に誰も知らない新しいことを知ることができるといって、面白さがあります。

鯨類には、サル仲間と匹敵するような社会や知能を持つ種類もあります。彼らの社会を調べることを通して、ヒトや他の動物の社会の進化の理解が進むことがあるに違いありません。

「クジラが教えてくれること」

海洋の魚は数十年周期で種類ごとに増減する現象が起ります。小魚を餌にするクジラは、アジが増えればアジを食べ、イワシが多い周期にはイワシを食べるといふように、状況に応じて食べる魚を変えま

す。特定の魚を捕りすぎてしまう傾向にある人類が見習うべき点かもしれません。クジラが増えたと海洋生態系を攪乱すると言う人がいますが、クジラは人類が捕獲する以前に数百万年も生きてきたのです。その間、生態系は攪乱され続けていたでしょうか。豊かな生態系であったはずです。クジラよりも人類の方がもっと重大な影響を生態系に及ぼしているということ

これまで、研究の途上で多くのクジラやイルカを好んで食べてきました。ですから、各地の食文化は尊重すべきものと思いがすが、やはり、生物学者である以上、捕鯨とクジラの管理については、きちんと注意していく必要があると思っています。ひと口にクジラが増えているとか、減っているとかよく言われますが、クジラはその種類ごとに、生態も行動もさまざまです。とてもひと括りにして論じるわけにはいきません。

「知識の「力」とは」

寿命の長い鯨類の調査研究は、地道なフィールドワークが基本です。こうした研究がいったい何の役に立つのでしょうか。多くは、すぐに実益につながるようなものはありません。このような研究は軽視されがちですが、テレビのクイズ番組を見ても、ムダな知識であっても知らないことを知りたいと思ひ、誰が何を知っているかを知りたいのは、ヒトの根源的な欲求であることがわかります。それは、そういった知識が人類の進化の上で生存に役に立ってきたことの反映です。どんなことでも、知識は将来を生き延びるための「力」なのです。大海原に生きる鯨類の姿は、そんなことを考えさせたりします。

(天野 雅男)



[今回のフィールドワーカー]



## 宮地 歌織

Miyachi Kaori  
(国際健康開発研究科 助教)

1972年福岡県みやま市生まれ。1997年筑波大学国際関係学類卒業。東京都立大学修士課程・博士課程、英国サセックス大学大学院(開発人類学)などを経て、国際NGO「家族計画国際協力財団(ジョイセフ)」にて海外プロジェクト担当。2009年より現職。

世界には多様な文化や考え方があり、そんな異文化の人々の暮らしの中に飛び込み、人と関わり合いながら、未知の世界を調査・研究しているフィールドワーカーたち。今回は、世界各地の途上国で、女性の健康面からアプローチを続けている、宮地歌織先生のお話です。

## 第2回 リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

### ケニアの農村の女の子の話

私は来年で小学校に入る。もう少し大きくなると、女の子も男の子も「オトナになるための手術」を受けるの。それをやったら、「おねえちゃん」になれるってカンジ。お父さんは「女の子の手術はしなくてもいい」「って言っている。でもおばあちゃんは「やった方がいい」、お母さんも「絶対やるべき」と言っている。痛いけど、その痛みをがまんしないとオトナになれないって。

お兄ちゃんは今年、お父さんと一緒に病院に行って「オトナになるための手術」をし

た。「割礼」というの。お兄ちゃんは病院で泣かなかったって、痛くない注射をしたから。でも手術が終わって、別の小屋で一人になったら泣いていたって。この手術を受けたら、家にはすぐに帰れない。別のところで何日か過ごさなくちゃいけない。でも家に帰ったら「こちそうが食べられるの。お兄ちゃんは、一人ぼっちになったのは初めてだから、怖くなったのかな。私もいつか、この手術を受ける。それをがまんしたらオトナになれる。はやく「おねえちゃん」になりたいな。

現場に飛び出せ!

躍動する

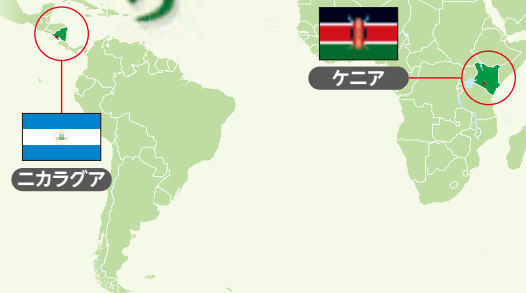
フィールドワーカーたち



割礼を終え、カンガ(布)にくるまって休んでいるグシイの女の子たち(10才前後)。



西ケニアにあるグシイの人々が暮らす地域。赤道直下だが、高地なので涼しい。自給自足の生活で、畑では主にモロコシなどの穀物を育てている。首都ナイロビでは都市化が進んでいるものの、地方ではのどかな風景が広がっている。







宮地先生がお世話になった  
家族のおばあさんとお孫さん。

## 伝統文化、 「割礼」へのとまどい

人類学では、人々に寄り添う視線でその社会を見るために、現地に住み込んでフィールドワークを行います。私が社会(文化)人類学の大学院生として西ケニアのキシイという地域に住むグシイという人々の中でフィールドワークをしていた頃に、この割礼<sup>カレ</sup>についても調査をしました。この地域では、割礼は子どもから大人になるための通過儀礼として行われており、成人男性ではほぼ全員、そして女性だと九割以上が受けています。割礼に関しては、宗教や文化ごとに様々な存在理由が提示されていますが、ここでは「伝統」として強く認識されていました。おそらく一生をこの村で過ごす女の子たちにとって、割礼を受けないという選択は考えられず、冒頭の話のように、むしろその日が来ることを待ち望んでいる姿が伺えます。そして、近年では衛生面への考慮という点から、看護師が使い捨てのメスを使うなど近代的な方法が取り入れられていました。(注)

さて「私」という「日本人」がケニアや他の文化を見ると、さまざまな慣習や考え方の違いに驚き、戸惑いを感じたりします。この割礼もまさにそうでした。世界的に見てみると、女性の場合はFGM(Female Genital Mutilation: 女性性器器切除)とも呼ばれ、多くの国際機関や保健機関、先進国の国々などから非難されています。

しかしながら、新聞などのマスメディアが報じていても、外部からの反対活動が行われても、その声は村人の耳を素通りするだけで、心には届かない様子が見受けられました。

## 女性の健康を大事にする、 というアプローチ

文化として必要とされている女子割礼も、身体的には悪影響であることは間違いありません。また、女性は出産という身体の特長があるので、男性とは別の側面で健康問題を考える必要があります。この地域では割礼以外にも、妊娠時の栄養不足、安全でない出産、望まない妊娠、家庭内暴力など、さまざまな健康上の問題がありました。後から思えば、村人にとっては、ある特定の文化を非難されるよりも、「女性の健康を大事にしよう」という包括的なメッセージであれば、より届きやすかったかもしれません。

このように性や生殖に関する健康問題にアプローチする際には、「リプロダクティブヘルス/ライツ」(Reproductive Health/Rights ※以下、「RH/R」という概念が欠かせません。日本ではまだ、なじみの薄い言葉ですが、直訳すると「性と生殖に関する権利」のこと、たとえば家族計画や母子保健、HIV/AIDSを含む性感染症などに関して、情報やサービスを誰でも受けることができ、安全で安心して健康に暮らすことができる、という包括的な権利を意味します。

私はもともと「RH/R」という言葉は知っていたのですが、ケニアでのフィールド経験から、まさに「これだ!」と思いました。途上国でも、先進国でも、女性が自分自身の身体を大事にし、安全に産したり、望まない妊娠を防げたりすることは、とても素晴らしいことだと思いませんか?そして、その後も途上国のフィールドで活動したいと思い、RH/R分野の国際協力の現場へと足を踏み入れて行きました。



孫が割礼を終えたことを喜び、自分たちも誇らしい気持ちで踊る祖母たち。



グシイの人々は割礼による精神的、肉体的痛みを乗り越えることが、女性としてステップアップすることだと考えている。写真は孫の面倒を見る祖母。



学校から帰ったら、家の畑のお手伝いをするのが子どもたちの日課だ。

ほとんどがキリスト教徒のグシイの人々にとってクリスマスは大事なイベント。パーティーで得意げにダンスを披露している女の子たち。すでに割礼を受けている年頃。



# NICARAGUA

## 「思春期保健」 ニカラグアの新たな挑戦、



さて、RH/Rにはさまざまな分野がありますが、その中で近年重要視されているのは「思春期保健」という若者をターゲットにした活動です。日本でも、途上国でもそうですが、結婚しているカップルや出産経験のある女性たちと比較すると、若者は性に関する情報やサービスは得にくいという状況があります。その一例として、中米のニカラグアを見てみましょう。

2006年、首都のマナグアからそう遠くない中規模の町で、妊娠中の十六歳の女の子に出会いました。彼女は他のラテンの若者同様、踊るのが大好きです。週末にはよく踊りに出かけています。でも他の子と違ったのは、八月の大きなお腹でした。この町では彼女だけではなく、他の若者や女性にとっても、意図しない、望まない妊娠が多く、シングルマザーも多いことに驚きました。しかし逆をいえば、シングルマザーが実家で子育てをする風景は、どこにでも見られる、普通の光景ともなっていました。



ニカラグアの思春期保健のプロジェクトで、若者に性に対する現状について聞き取り調査をしているところ。

カトリックや政治の影響もあり、この国では人工妊娠中絶が法律で禁止されています。10代前半は身体も未発達で、妊娠・出産による悪影響が懸念されますが、妊産婦の生命に関わるケースでも、また自分が意図しない妊娠（たとえば暴力を受けた場合）でも中絶ができません。しかし、教会でも、学校でも、若者に対する性教育はなく、避妊具も手に入れることが難しい状況でした。

そこで保健省が中心となり、思春期の若者が利用しやすく、質の良いRH/Rのサービスが提供されることを目的としたプロジェクトが始まりました。私もプロジェクトに入り、まずは「大人」（保健施設のスタッフや地域のリーダー的な存在の人）に対して若者の状況を知ってもらうこと、そして「若者」に



まちの薬局で、若者が購入している避妊具についても調べた。



現地のスタッフや若者に性教育教材の説明をする宮地先生。

対しては「思春期保健プロモーター（推進者）」として養成したり、若者同士が教えあうピア（仲間）・エデュケーションを取り入れたり、そしてさらには、大人と若者がアイデアを寄せながら協同で啓発活動（イベント企画）をやるサポートをしてきました。

当初は「若者ができるわけではない」と眉をひそめていた保健センターのスタッフも、若者たちの発想力や行動力、そして自分たちの友達を助けたいという情熱に押され、だんだん協力的になっていきました。そしてプロジェクトの終了時には、若者をサポートする体制が整い、若者自身もプロモーターとして活躍するなど、既存の人材や枠組みの中で自分たちの活動を展開していけるところまでたどり着く、ことができました。

## 世界各地での取り組み

今回、ケニアやニカラグアの事例を挙げましたが、RH/Rをとりまくものの幅広さ、そして政治や文化、宗教との関連での難しさが垣間見えたかと思えます。その難しさに対しては、別の国や地域で得た経験が役に立つ場合が多々あります。私の場合、一カ所にとどまってフィールドワークを続けるというスタイルではありませんが、アフリカ、アジア、中南米でのフィールド経験を踏まえながら、RH/Rという切り口で今後も調査や活動を続けていきたいと思っています。



国際健康開発研究科の大学院生たちとのバングラデシュ訪問。NGOによる農村地域での子どもの教育活動現場を訪問。

（注：P.9）より詳しく女子割礼について知りたい方は次の文献などを参照ください。  
「ケニアの社会における「女子割礼」をめぐる現代的諸相」  
宮地歌織「社会人類学年報第30号」弘文堂 2002年  
『裸のアマンソマリ人少女の物語』口述／アマン  
（ワシントン・ポスト）ジャズボイ著 早川書房 1995年





# 子宮頸がんから、 大切な自分の身体を守ろう

いま、若い女性に増えている子宮頸がん。  
その根絶をめざして治療と研究活動を続ける  
産婦人科医、山崎健太郎先生をご紹介します。

長崎大学病院 産婦人科医

山崎 健太郎

Yamasaki Kentarou

1972年長崎県島原市生まれ。1997年長崎大学医学部卒業後、同大医学部産科婦人科学教室に入局。遺伝学の研究のため、2002年米国ペンシルベニア大学に留学。帰国後、大学や関連病院で臨床経験を積み、2007年から現職。分娩からがんの診療まで行っている。日本産科婦人科専門医、日本人類遺伝学専門医。



「妊娠・出産は、神秘的で感動的です」と山崎先生。4日前にとりあげたばかりの赤ちゃん。

## 「子宮頸がん」とは?

女性にしかない特別な臓器のひとつ「子宮」。子宮頸がんとは、子宮頸部と呼ばれる子宮の入り口付近にできるがんをいいます。「子宮頸がんになると、子宮を摘出しなければならぬ場合があります。若い女性が、将来の妊娠と出産の可能性を失えば、心身ともに大きな負担になります。また、がんが進行していた場合、生命を奪う恐れもあるのです」と、子宮頸がんの治療と、その研究をしている産婦人科医の山崎健太郎先生は言います。

「子宮頸がんは遺伝などに関係なく、性交経験のある女性なら誰でもなる可能性があり、特に若い女性に多いがんとして知られています」。最近のデータによると女性特有のがんの中では、乳がんに次いで2番目に発症数が多く、20〜30代においては、発症するすべてのがんの中で第1位を占めています。

なお、子宮にできるがんには、子宮体部にできる「子宮体がん」もあります。「子宮体がん」は50〜60代に多く、「子宮頸がん」とは原因や特徴も違うので、それぞれについて正しい知識が必要です(※次ページ①②③参照)。



## 「子宮頸がん」の原因

子宮頸がんは、HPV（ヒトパピローマウイルス）というウイルスが子宮頸部に感染して発症することがわかっています。ちなみに、この原因を明らかにしたドイツのハラルド・ツァ・ハウゼン博士は、2008年度のノーベル生理学医学賞を授与されました。これにより開発された予防ワクチンは、すでに世界100カ国以上で使用され、日本でも昨年12月から発売されています。

「皮膚と皮膚（粘膜）の接触によって感染するHPVは、もともと身体どこどこにでもいる、ありふれたウイルスです。すべての女性の約80%は、一生のうち一度は、子宮頸部に発がんのリスクのあるHPVに感染していると考えられています」。しかし、その多くは感染しても、免疫機構で排除され、子宮頸がんに進展するのは「くわすかなのです」。

HPVには100種類以上の型があり、そのうち子宮頸がんの原因となることが多いとされる型は15種類ほどです。

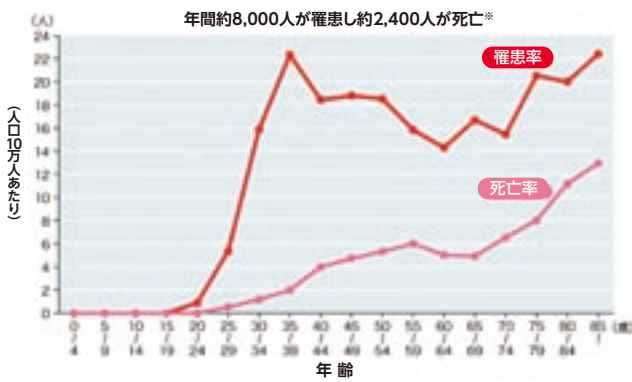
「なかでも、HPV16型とHPV18型と呼ばれる2種類は発がん性の高いタイプで、子宮頸がんを発症している20〜30代の約70〜80%から見つかっています。予防ワクチンも、この2つの型の感染に効果があるようにつくられています」。

## 予防できるがん

山崎先生の研究グループは、長崎県を中心に多くの女性の協力を得て、HPVの型を調べました。すると、HPV16型、HPV18型を除くと、欧米とは違う型が多いことがわかりました。「HPVは、国や地域によって多

### ② 子宮頸がんの罹患率と死亡率(日本人女性)

妊娠、出産が多い20〜30代にかけて急激に罹患率が増える。

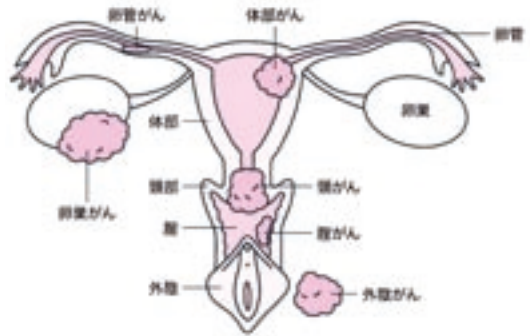


罹患率:2001年データ、死亡率2005年データ

国立がんセンターがん対策情報センター

※厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業 がん罹患・死亡動向の実態把握の研究 平成18年度 総括・分担研究報告書(主任研究者 祖父江友孝)、2007年4月公開

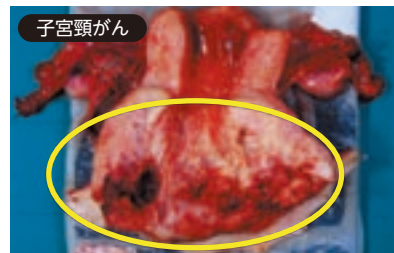
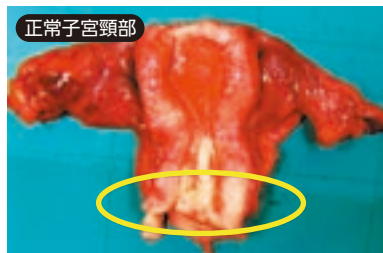
### ① 子宮頸がんとは?



- 子宮がんは、婦人科領域のがんの中で、乳がんに近いで発症頻度が高い。
- 子宮がんには、子宮頸部に発生する「子宮頸がん」と、子宮体部の子宮内膜に発生する子宮体がんがある。
- 子宮頸がんは、発がん性HPVの感染が原因、子宮体がんは、女性ホルモンの異常が原因と考えられている。

### ③ 正常子宮頸部と子宮頸がんの写真

子宮頸部は細く、妊娠中は固く閉じているが、分娩の時は拡大して産道になる。子宮頸がんは、がんが発生したため上部の子宮体部よりも大きくなっている。楕円で囲んだ部分はほとんどががん組織。(写真右)



い型が異なります。予防ワクチンは、HPV16型とHPV18型以外の型にもある程度、感染予防の効果があると考えられています。が完全に防ぐというわけではありません。子宮頸がんは発症しても初期には全く症状がないことが多く、自分では気づきにくいがんです。山崎先生は、予防ワクチンの接種に加え、定期的な子宮頸がん検診を受けることで、より確実に予防できると言います。「検診で、がんになる前に発見できれば、ほとんどの場合、子宮を摘出せずに治療することができます。欧米では10代後半以上の女性の約8割が検診を受けていますが、日本では2割程度と極めて低い状況です。20才を過ぎたら、ぜひ、受けましょう」。

### 生命の誕生に関わる医療

山崎先生の子宮頸がんに関する研究活動は、長崎大学病院での診察や治療、臨床実習生の教育などと並行して行われ、多忙な日々を送っています。

高度先進医療を提供する長崎大学病院には、むずかしい症例の患者さんが多く受診しますが、産婦人科も、然り、妊婦さんは、高度で専門性の高い治療を必要とするケースがほとんどです。「ハイリスクを乗り越え、赤ちゃんが無事に生まれてきたときは、ものすごくうれしい。何度体験しても大きな感動がありますね」と目を細めます。

産婦人科は、生命の誕生に向けて準備を整えていくという、ほかの科にはない特殊な医療を担っています。「お産は病気ではありません。また、意外に思われるか



もしませんが、なぜ、決まった日数で陣痛が起るのかなど、解明されていないことがたくさんあるのです」。

## 祖父の代から産婦人科医

医学部を卒業して13年目。複数の県内外の病院で、臨床の経験を積んできました。産婦人科医になったきっかけを問うと、「祖父も、父も産婦人科医で、そういう世界が身近にあったことが大きいと思います」という答え。幼い頃、開業医だった祖父の医院で過ごした記憶をたどりながら、「子ども心に、祖父の仕事に興味や関心を抱いていましたね」と言います。山崎先生にとって産婦人科医になることは、「ごく自然なことだったようです」。

しかし、医学部に入って何の迷いもなくこの道に進んだのかというと、そうでもありません。「学生時代は、基礎医学に興味があり、研究者になることも考えていました」。実は、そうした思いにはもう一つ理由が。「当時の私は、人とコミュニケーションをとるのが苦手で、患者さんと接する臨床は向いていないと思っていたのです」。

それでも、未解明なことの多い「お産」への関心と、持ち前のチャレンジ精神で臨床の道へ。毎日、患者さんや多くの医療スタッフと接しながら、ある日、ふと気付いたことがあります。「自分は人と接することは、嫌いじゃない。むしろ好きな方だ」。飛び込んでみて、初めて見えてきた本来の自分。「誰でもそうかもしれませんが、若い頃は、自分のことが良くわかってなかったです」。



経験豊富な医療スタッフが揃った長崎大学病院産婦人科。医師、看護師、助産師などが連携し、一人ひとりの患者さんを支える。



「お産のしくみは、驚くほどよくできています。解明されていないことも多く、興味はつきないですね」。



臨床実習生(医学部5年)に「胎児心拍モニター図の読み方」について講義中。病棟のベッドサイドでの指導も行つ。



妊婦さんの超音波検査。「元気にしているかな?」と、お腹の赤ちゃんの様子をうかがう山崎先生。スムーズに診られるようになるには、知識だけでなく経験も必要だ。

## 「苦手」の乗り越え方

性格は、「のんびり屋さん」「マイペース」。口調も穏やかで、慎重に言葉を選びながら話します。そのような性格だからこそ、緊急の処置や手術などで速やかな対応と決断を迫られることの多い仕事に対して、普段から、さまざまな症例ごとの対応をシミュレーションし、確実に自分のものにする努力を惜しみません。先輩の医師に教えを請い、よりよい方法を常に考えます。「苦手だと思つても、自分なりの工夫で必ず乗り越えられると思っています」。山崎先生は、そうした地道な努力を重ねて産婦人科医としての腕を磨き、信頼される医師へと成長したのです。

今後、さらに高度な専門性を養うための勉強を続けたいという山崎先生。現在、力を注いでいる子宮頸がんの研究については、感染する人と、しない人の免疫の違いなどの解明をめざし、合わせて予防のための啓発活動も続けていく予定です。「若いからといって、自分の身体をおろそかにしてはいけません。がんにつながるような異常が起つてからでは遅いのです。予防ワクチンと一年に一度の検診で、子宮頸がんを確実に予防しましょう」。

◎子宮頸がんの検診は、どこの産婦人科でも行っています。予防ワクチンは、どこの病院でも受けられますが、予約が必要な場合がありますので、事前に医療機関へお問い合わせください。



いいかが  
放題

# 若者たちよ、 もつと、世間と交わろう。

## 学生運動のさなかに入学

私は、一本釣り漁師の三男坊として生まれました。二人の兄が中学を卒業後、県外へ出ていたことや、家があまり裕福でなかったこともあり、自分自身はいつでも親の手伝いができる地元に残ろうと決め、長崎大学を受験しました。

私は経済学部出身ですが、高校生の頃は、理系をめざしていました。将来は技術を身に付け、何かしらのものづくりに携わりたいと思っていました。しかし、「どうも、お前はそっかしく、慌てん坊なところがある」と周囲に言われ、そういう性格では緻密さ、正確さが求められるものづくりに向いていないと自分でも考え直しました。それで、将来の職業の選択肢が広い経済学部に進路を変更したのです。

私が受験した年は、東京大学の安田講堂事件があった年です。学生運動が盛んな時代で、長崎大学もその影響を受け、入学時期が遅れました。ようや

く、大学に行けるようになって、学生会館などがまだ封鎖されたままです。大学に入って最初にやったことというのが、「学館封鎖の解放闘争」でした。私たちは学生運動を通して、仲間や対立する相手など、とにかくいろいろな人たちと、ああでもない、こうでもないという議論をしました。熱く、真剣だったので、いま振り返ると、貴重な体験をしたと思っています。

## アルバイトに明け暮れた日々

大学時代は学費や生活費を稼ぐため、アルバイトばかりしていました。漁師である父の背中を見て育ちましたから、身体を動かさないと飯は食えないという思いが強く、家庭教師を2〜3人掛け持ちし、お米の配達や造船所関係の特殊防水工事など、さまざまな仕事をしました。そうした経験は、私の血や肉になつていまに活かされていると思つて



います。ただ、あまり大学の勉強をしなかったことは、大いに反省しています。

また、いまは、たいへんな就職難ですが、私たちの頃は、売り手市場。学生1人が、たぶん5、6社くらいの内定をもたらっていたと思います。私は、経済学部の方先輩方が活躍していた商社マンへの憧れがありました。地元で役に立ちたいという思いもあって、長崎県庁へ入庁。以来、ずっと行政畑を歩いてきました。

### 迷ったときに必要なもの

社会へ出て仕事を始めると、これまで勉強してきたことや経験だけでは、どうにも判断できず、迷ってしまうことが山ほど出てきます。そういうときは、頭だけではなく、全身全霊で判断しなければなりません。それは、まさに、人としての総合力が問われる場面です。では、総合力を身に付けるためには、どうしたら良いのか。それには、さまざまな人の言葉に耳を傾け、その考え方を知り、自分の中に取り入れていく。そういう姿勢が大事ではないかと感じています。

### 若者に対して思うこと

県庁に入ってくる新採用の職員たちを見てみると、皆さん、よく学ばれているし、性格もいいのですが、どうも身ご

しが固くて、ごちない気がしています。

小さい頃から机の前に座って勉強をしてきた上に、この氷河期の就職戦線のなか、合格するためのノウハウを教え込まれ、結果、皆、同じような受け答えをしている。それは作られた魅力で、個性がなくなってきたのかなと感じています。

作られた魅力は、すぐはがれるし、必要ないものです。もっと、世間や社会と交わる機会を積極的に設け、しなやかさやしたたかさを学び、野武士みたいな人になって欲しいなあと思っています。いろいろな生活体験や回り道をして、自分の身をもって獲得したものが、社会を生きていく上で本当の武器になっていくのです。

### やろうと思えば必ずできる

やりたいことは、心に強く思い、途中で投げ出さないことです。県職員時代、用地買収や道路建設などで難しい問題を抱えた案件を乗り越えてきました。その経験から、何ごともあきらめず誠意を持って対応すれば、必ず道は開けると実感しています。

大事なのは、行動を起こすことです。簡単なことも、放っておくと懸案になります。壁にぶち当たっても、信念を持って、具体的に取り組んでください。いつの日か、必ずや実現できます。



長崎県知事

中村 法道

Nakamura Houdou

1950年長崎県有家町(現・南島原市)生まれ。1973年長崎大学経済学部卒業後、長崎県庁へ入庁。対馬支庁長、農林部長、総務部長、副知事として活躍。2010年3月より現職。趣味はイカ釣り、家庭菜園。



# グラボバー図譜

『日本西部及南部魚類』解説・山口敦子（水産学部教授）

*Fishes of Southern & Western Japan*

Yamaguchi Atsuko

プロフィール

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年長崎大学水産学部准教授。2010年7月から現職。博士（農学）。専門は魚類学、水産資源学。主な著書に「干潟の海に生きる魚たち―有明海の豊かさの危機―」（東海大学出版会）、「海藻を食べる魚たち」（成山堂書店）などがある。



ブダイ  
*Calotomus japonicus*

●画家：中村三郎（左）、小田紫星（下）



## 雄と雌の違いに新事実

ブダイ科魚類といえば、熱帯のサンゴ礁域を思い浮かべるでしょうか。日本産32種のブダイ科魚類のうち、ブダイは唯一温帯域にも適応した種類で、日本の本州中部から西部太平洋とインド洋にかけて広く分布します。

長崎沿岸のブダイは最高8歳、全長48cmに達します。大きなブダイのほとんどは雄で、その体色は青や緑などカラフルで変化に富んでいます。夏の産卵期になると縄張りを作り、その大きく美しい体で雌に求愛します。雄とは対照的に、雌の方は小型で地味な赤褐色です。海の中には性転換する生物が少なくありませんが、ブダイの場合、全てが雌として生まれ、その後、一部の雌が雄への性転換を経験することが私たちの研究で初めてわかりました。

グラボバー図譜では、青色と赤色の2尾のブダイがそれぞれ雄、雌として描かれています。かねてから青が雄、赤が雌、というのが定説でした。しかし詳しく調べてみると、地味な赤色ブダイの中にも雄が含まれていることがわかりました。小型の雄は、雌に擬態しながら大型雄の注意をそらして密かにペアに割り込むことで、自らの子孫を残している可能性が出てきたのです。グラボバー図譜で描かれた赤色のブダイも、実際は雄であったのかもしれませんが。

## 容姿にちなんだ複数の名称

ブダイという名前の由来には、体中を大きな鱗にがっちり覆われた様子がまるで鎧を着





長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

日本西部及南部魚類【グラバー図譜】

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

た武士のように見えることから「武鯛」、鯛のようでも鯛ではないことから「部鯛」、鯛よりも格好が悪いことから「不鯛」、ひらひら舞うように泳ぐ姿から「舞鯛」など、諸説あります。分類学的に見れば、ブダイはタイではなくベラに近い魚です。

ブダイ科魚類は共通して「オウム」の嘴くちばしに似た歯を備えています。そのため、この魚類は英語で parrot fish (オウム魚) と呼ばれます。そうしたなか、ブダイの場合、他の仲間とは少し違った特徴があります。小さな歯が寄り集まって基部のみが癒合しており、口から不揃いの歯がはみ出しているのです。かみ合わせの悪そうな歯を見せて泳いでいる姿は、何とも愛嬌があるのですが、その口元の様子がまるで怒っているように見えることから、ブダイのことを「エガミ(イガミ)」と呼んでいる地域もあります。また、海藻を食べることにちなんだ「モハミ」、沖縄での「アカエラブチャー」、そして長崎では「オオガン」というように、ブダイには数多くの地方名があります。

ブダイは、長崎を含む日本中部以南の定置網や刺網などで漁獲されています。一部地域を除き、経済的価値の高い魚ではありませんが、歯応えのある上品な白身で、揚げ物にしても鍋にしても美味です。冬になると海藻を食べることが知られており、ハバノリなどの海藻を餌に行われるブダイの浮き釣りは、冬の風物詩となっています。

※ハバノリ：日本各地の磯で見られる海藻。冬から春にかけて採取され、古くから食用とされる。



未来に活かしたい、先人たちの思い

# 温故知新

第1回

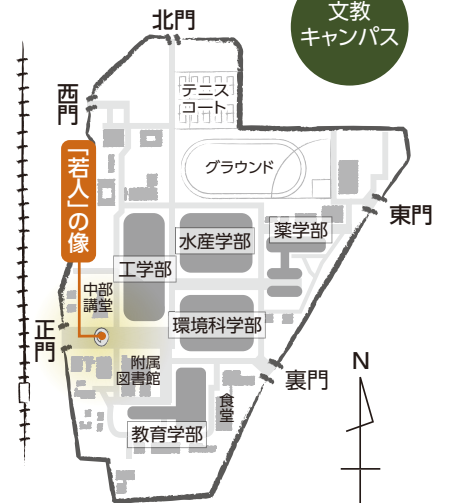
## 「若人」の像

《文教キャンパス正門前》

ロータリーになっているため、像の存在に気付かない人も多い。かつてはこの像を囲むように、葉を豊かに茂らせた3本のカナリヤシが、ロータリーを印象的に演出していたが、害虫被害で現在の姿になっている。



文教  
キャンパス



### ■題名に違和感あり!?

大勢の学生や教職員が行き交う文教キャンパス正門。その正面に設けられたロータリーガーデンの池のほとりに建っているのが「若人」の像です。

作者は、彫刻家の故・山本稚彦氏（1901—1993元日本美術家連盟理事長）。1958年（昭和33）の第1回日展で、文部大臣賞を受賞したブロンズ像です。

物思いにふけるように、両手を後ろに組み、頭を少し傾けた姿は、どこか寡黙な印象で、「若人」という題名に違和感を憶える人もいるかもしれません。

実は、この作品の原題は「北の人」。作者は、人という字を連想するポーズで、北国の青年が前進する姿勢を表現しています。

### ■シベリアでの極限生活

山本氏は戦後間もなく、ソ連軍の捕虜となり3年3カ月もの間、シベリアで抑留生活を送りました。厳しい寒さと餓えの中、容赦なく課される過酷な労働。多くの仲間の兵士たちが、故郷の土を踏むこともなく次々に亡くなってい

### ■作者から若者たちへ

作品が長崎大学に設置されたのは、1959年（昭和34）のこと。当時の大学は、戦時色をぬぐい去り（三菱兵器製作所の跡地につくられた文教キャンパスには、まだその建物が残っていた）、未来を見据えたキャンパスづくりに腐心していた時代です。大学の顔となる正門にもふさわしい像を求め、文部省（現・文部科学省）を通じて、山本氏の作品と出合ったのでした。

「北の人」は、若人の前進する姿がキャンパスにふさわしく、さつそく譲渡を願うと、山本氏は快諾。無償で提供し、原題についても、長崎のキャンパスに合う題として大学が提案した「若人」への改題も許してくれました。

あれから半世紀。いま、あらためて像を見上げれば、どんなに苦しい中にあつても、人間性を失わずに前進する姿勢を若者たちに伝えようとした作者の思いが、心に響いてくるようです。

◆出典／学園だより第25号（昭和46年12月）  
学園だより第76号（昭和57年4月）



### 済州大学の ホヒャンジン総長一行が 表敬訪問

6月21日、済州大学校（大韓民国）のホヒャンジン総長、カンヨンフン国際交流センター長、イグアンマン工学部長、カクヨンスク医学部長、カンチョルウン工学部副学部長が片峰茂学長を表敬訪問しました。

一行は、6月21日から23日にかけて本学で開催される



ホヒャンジン総長一行と本学関係者

「第11回長崎大学・済州大学校科学技術共同シンポジウム」に出席するため、来学されたものです。

片峰学長との懇談には、本学側から清水康博工学部長、石松隆和工学部教授、チョンビヨンドク教育学部教授らが出席し、共同シンポジウムのセッションの概要説明や両大の間ダブルデイグリーの実現に向けての具体的な調整などについて意見交換が行われました。

### 国際原子力機関（IAEA） ヒューマンヘルス本部長が 片峰学長を表敬訪問

8月10日、国際原子力機関（IAEA）ヒューマンヘルス本部のRethy Kieth Chhem部長が片峰学長を表敬訪問しました。

同本部長は、IAEAと長崎大学との新たな連携の協議のために来学されたもので、片峰学長との懇談は、本学医歯薬学総合研究科の山下俊一研究科長を交えて、国際原子力機関の紹介や意見交換などが行われました。懇談の最後には、「Nagasaki people

have the moral authority to advocate a world without nuclear weapons and to promote a peaceful world.」(長崎の人たちは、核なき世界を提唱する道徳的権威とともに、平和な世界を実現する大きな力を持っています。)とのメッセージも託されました。



(左から)片峰学長、Rethy Kieth Chhem部長、山下研究科長

### 原爆犠牲者 慰霊祭を挙行

8月9日、原爆犠牲者慰霊祭が、医学部記念講堂において開催されました。同慰霊祭は、原爆死没者教職員と学生897人の御霊を慰めるため毎年実施されており、被爆65年目となる今年

員ら約350人が出席しました。

はじめに松山俊文医学部長から、「私たちがするべきことは、原爆の被害者の姿を、そして言葉で綴る多くの被爆体験を風化させずに広く世界へ伝え続け、被害者の顔が見えるようにすることです。」と式辞が述べられ、原爆投下時刻の午前11時2分に、参列者全員で黙祷を捧げました。

また、原爆投下当時、長崎医科大学に在学中であった築城クリニック(長崎市)の築城士郎院長から、当時の惨状を追想するお話をいただいた後、参列者全員による献花が行われました。



式辞を述べる松山医学部長



被爆時の惨状を語る築城氏



参列者による献花

つづいて、国際ヒバクシャ医療活動に尽力する山下俊一教授から、故秋月辰一郎先生の「死の同心円」を引用して、原爆の実相についての講話が行われました。最後に、ご遺族を代表して角尾澄夫氏からご挨拶をいただき、慰霊祭は終了しました。



講話をする山下教授



ご遺族代表の挨拶を述べる角尾氏



## 化学まつり2010-未来のノーベル化学者は君だ-

小学生とその保護者、  
および一般市民を対象に公開化学実験を行います。

日時 平成22年10月16日(土) 10:00~16:30

場所 長崎大学薬学部学生実験室(薬学部1階)

なお、本事業は、子どもゆめ基金の助成を受けて実施されます。

〈問い合わせ先〉 長崎大学薬学部 附属薬用植物園 山田耕史准教授  
TEL:095-819-2462 E-mail:kyamada@nagasaki-u.ac.jp

## 子どもの健やかなそだちのために ~今、わたしたちに求められるもの~

現代の教育危機に対して、私たち一人ひとりに何ができるかを  
あらためて問い直すシンポジウムです。

ジャーナリストの江川紹子さんの基調講演も見逃せません。

主催 長崎大学心の教育総合支援センター

後援 長崎県・長崎市・長崎県教育委員会・長崎市教育委員会

日時 平成22年10月23日(土) 13:00~16:10

講演者 江川紹子(ジャーナリスト) 他

参加費 無料

会場 長崎大学中部講堂(長崎市文教町1-14)

〈問い合わせ先〉 長崎大学心の教育総合支援センター事務局  
TEL:095-819-2256 (平日10:00~16:00)

## 工学の明日を考える ~長崎大学の新たな挑戦~

平成23年度から新しい「工学部」と「工学研究科」がスタート。  
持続可能社会の実現に向けて、「工学」の在り方が問われる今、大  
学における工学教育・研究の目指すべき方向を熱く議論します。

主催 長崎大学工学部

協力 社団法人 日本工学アカデミー

日時 平成22年10月25日(月) 14:00~17:20

講演者 小宮山 宏 (株)三菱総合研究所理事長(東京大学前総長)  
相馬 和夫 (三菱重工業(株) 執行役員・長崎造船所長) 他

会場 長崎大学中部講堂(長崎市文教町1-14)

参加費 無料

〈問い合わせ先〉 長崎大学工学部事務部  
前田忠一 TEL:095-819-2482 田中宏智 TEL:095-819-2487

## information

### 寺島実郎責任監修リレー講座 世界の構造転換と日本の進路

各分野で活躍する講師陣が、日本と世界のいまを鋭く洞察。  
断片的な「知」を超え、「全体知」のなかで、混迷する時代を展  
望するヒントを長崎から発信します。

#### 第1回

9月30日(木) 15:30~17:00

[寺島 実郎] (財)日本総合研究所理事長/  
(株)三井物産戦略研究所会長/多摩大学学長

#### 第2回

10月14日(木) 14:30~17:00

[沈 才彬] 多摩大学経営情報学部教授  
[坂本 和一] 立命館大学名誉教授

#### 第3回

10月21日(木) 15:30~17:00

[伊勢崎賢治] 東京外国語大学大学院総合国際学研究院・教授

#### 第4回

11月15日(月) 15:30~17:00

[中村 桂子] JT生命誌研究館 館長

#### 第5回

12月 2日(木) 14:30~17:00

[村上 憲郎] グーグル(株) 名誉会長  
[財部 誠一] 経済ジャーナリスト

#### 第6回

12月16日(木) 14:30~17:00

[寺島 実郎] フォーラム

主催 長崎大学 共催 長崎新聞社

日時 平成22年9月30日(木)~12月16日(木)

会場 長崎大学中部講堂(長崎市文教町1-14)

受講料 各回とも1,000円です

申込方法 詳しくは長崎大学ホームページで

〈問い合わせ先〉 広報戦略本部  
TEL:095-819-2868(受付時間:平日10:00~17:00)

長崎には多くの伝統文化があり  
ます。今回はその中で「ワジラ」を取  
り上げ、長崎と鯨類研究と題した  
特集といたしました。水産学部の天  
野雅男教授に「西海捕鯨とワジラ文  
化」、さらには自身の「鯨類研究につ  
いてわかりやすく語ってもらいまし  
た。本特集を通して、「ワジラ」に対  
する認識を新たにいただければ  
幸いです。

「現場に飛び出せー躍動するフィ  
ールドワーカーたち」の第2弾では、  
若手研究者の宮地歌織助教に活動  
の様子を調査・研究内容とともに執  
筆してもらいました。

「人クローズアップ」は、長崎大学  
病院の山崎健太郎医師です。最近、  
マスコミでも取り上げられてきてい  
る「子宮頸がん」についての注意喚起  
とともに、若手医師の活躍の様子を  
紹介しております。

久々の「いいたか放題」には、本学

長崎大学広報誌  
【長報:チヨ-ホ-】  
CHOHO  
Vol.33

編集後記



## 第8回 学生ものづくり・アイデア展 in長崎

工学部学生が製作したアイデア作品を展示し、コンテストを実施します。

日時 平成22年11月20日(土) 13:00~15:30

場所 長崎大学総合教育研究棟エントランスホール

対象 学生、一般(事前申し込み不要)

URL <http://ecet.eng.nagasaki-u.ac.jp//index.ecet.html>

〈問い合わせ先〉  
長崎大学工学部機械システム工学科 扇谷保彦准教授  
TEL:095-819-2505 FAX:095-819-2534  
E-mail:oyasu@nagasaki-u.ac.jp

## 第2回 長崎大学ホームカミングデー 講演会『はやぶさ』プロジェクトのすべて(仮題)

母校長崎大学で、大学の近況に触れ、懐かしい恩師や学友と再会し、交流親睦を深めませんか。

本年、大きな話題を呼んだ『はやぶさ』プロジェクトの講演会をご用意しました。

長崎大学は心を込めて卒業生の皆様をお招きします。

共催 長崎大学・長崎大学全学同窓会

協力 長崎大学学園運営委員会

日時 平成22年11月20日(土) 13:00~18:20

講演者 的川 泰宣(元宇宙航空研究開発機構(JAXA)対外協力室長・教授 / 現JAXA技術参与・名誉教授)

会場 長崎大学中部講堂(長崎市文教町1-14)

対象 長崎大学の卒業生、在学生及び教職員

〈問い合わせ先〉  
長崎大学広報戦略本部 全学同窓会支援室  
TEL:095-819-2154 FAX:095-819-2156  
E-mail:zendousou@ml.nagasaki-u.ac.jp

## DOVOC(土木)フェア2010 人・自然・歴史 ~触れ合いがあるまちづくり~ テクノパワー土木おもしろ体験隊

橋の構造や砂地盤の液状化、水の力の不思議など、土木に関する実験やものづくりを体験・学習し、土木に興味や関心を育むイベントです。建設機械の操縦体験も実施します。

主催 長崎県「土木の日」実行委員会  
(長崎大学工学部(社会開発工学科・構造工学科)  
(事務局)、国土交通省、長崎県、長崎市、佐世保市、  
諫早市、大村市、島原市、土木学会西部支部、他)

後援 長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、  
読売新聞社、日本経済新聞社、日刊工業新聞社、  
NHK長崎放送局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、  
NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ、FM長崎、  
長崎ケーブルメディア

日時 平成22年11月7日(日) 13:00~16:00

場所 長崎大学工学部(長崎市文教町1-14)

対象 小学生高学年~中学生

参加費 無料

申込方法 往復はがきに参加者全員の住所・氏名・年齢・  
電話番号を書いて、長崎大学工学部社会開発工学科  
長崎県「土木の日」係(〒852-8521長崎市文教町1-14)へ。  
FAX:095-819-2627でも可。10月29日(金)必着

〈問い合わせ先〉 長崎大学工学部社会開発工学科  
TEL:095-819-2626

## 2010年度「メカライフの世界」展 造船のまち長崎で ~エコシップ・コンテスト~

機械工学科の大学院生と一しょにエコシップを作って、  
デザインや性能を競います。どんなエコシップができるかな?

日時 平成22年11月20日(土) 10:00~16:00(予定)

場所 長崎大学総合教育研究棟 多目的ホール

対象 小学生と保護者

URL <http://www.mech.nagasaki-u.ac.jp>

〈問い合わせ先〉  
長崎大学工学部機械システム工学科「メカライフの世界」展事務局  
TEL:095-819-2533 FAX:095-819-2534  
E-mail:ecoship10@mes.mech.nagasaki-u.ac.jp

### 〔編集・発行〕 長崎大学広報誌編集委員会

委員長

原田 哲夫 工学部 教授 広報戦略本部副本部長

委員

堀内 伊吹	教育学部 教授	佐々木 均	病院 教授
吉田 高文	経済学部 教授	深尾 典男	広報戦略本部副本部長 教授
高橋 和雄	工学部 教授	浅野 眞	広報戦略本部副本部長
池田 幸恵	環境科学部 准教授	林田 育三	広報戦略本部全学同窓会支援室長
小林 信之	医歯薬学総合研究科 教授	長友 佳織	広報戦略本部主査(広報調査)
堀尾 政博	熱帯医学研究所 教授		

TEL. 095-819-2018 FAX. 095-819-2156

〈E-mail〉[www\\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp) [発行日]2010年10月1日



経済学部出身の長崎県知事 中村法道氏に登壇いただき、自身の学生時代とこれまでのさまざまな経験を通して、若い人たちへ期待のこもったメッセージをいただきました。  
今回から新たな企画として、「温故知新」を開始いたしました。連載「グラバー図譜」と同様、新たな発見があるかもしれません。お楽しみください。  
(原田哲夫)



表紙について

長崎港残照

末永 建男

国際観光クルーズ船の着岸・離岸の補助など、港湾の船舶に欠かせないタグボート。背後に見えるのは長崎のまちのランドマーク、稲佐山。ひと仕事を終えた夕刻、照り映える光に包まれた港の景色が描かれています。作者は歯科医師（開業医）で、元長崎大学臨床教授（非常勤）。作品は本学に寄贈されたものです。





読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より充実したCHOHOを目指します。  
大変お手数ですが以下のアンケートにお答え下さい。  
ご回答はFAX(095-819-2156)でお願いします。  
なお、E-mail(www\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp)でも受け付けております。

[年齢] 歳 [性別] 男・女

1 今回よかったコーナーに をつけて下さい。(複数回答可)

- 【特集】 長崎と鯨類研究
- 【現場に飛び出せ!躍動するフィールドワーカーたち】 第2回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 【人クローズアップ】 長崎大学病院 産婦人科医 山崎 健太郎
- 【いたか放題】 長崎県知事 中村 法道さん 【グラバー図譜】 ブダイ
- 【温故知新】 第1回「若人」の像 【長大ニュース】
- 【インフォメーション】・【編集後記】

2 今回の内容はどうでしたか? をつけて下さい。

- やさしい  ふつう  少しむずかしい  むずかしい  わからない /  おもしろい  ふつう  つまらない

◎ご意見・ご感想をお書き下さい。-----

3 今後読んでみたいテーマなどありましたらご記入下さい。

ご自由にお書き下さい。

4 CHOHOをどこでご覧になりましたか?

5 その他、大学に対するご意見・ご要望がありましたらお聞かせ下さい。

ご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

長崎大学広報誌編集委員会  
〒852-8521 長崎市文教町1番14号 TEL 095-819-2018  
<E-mail> www\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp